

ボランティアは『施し』ではなく相手が自立するための援助でなくてはいけないと感じた。援助する相手の国や地域、住民の考えを尊重し、自立への手助けにならなくてはいけない。何を平等と思い、何を公正と考えるかは価値観によって違ってくる。こちらの考えや習慣を押しつけても支援にはならない。

9. 今後

※毛布は質、量、共に必要。毛布のほかに、お金も必要。(一食の運動)

平成14年度の毛布収集枚数は、159,642枚。輸送・梱包費は61,040,753円かかっている。この他にも倉庫代や管理代などが別にかかっている。

10. 毛布を送る運動ホームページアドレス

www.mofu.org



安田貞夫君 本年も宜しくお願い致します。

笹原壮玄君 前略、七草です。お仕事と皆様の益々のご壮健を！

早川龍雄君 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

小林満君 新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。米山さんの入会、心より歓迎申します。

落合益夫君 2003年本年もよろしくお願い致します。

米山忠俊君 新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。会員増強に協力頂きますようお願い申し上げます。

樋口金占君 //

木宮隆君 新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

石川友意君 新年おめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

本間建雄美君 新年あけましておめでとうございます。又御指導の程、今年もよろしくお願い致します。

小林幹扶君 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

馬場直次郎君 暖冬の予報が出ていたのですが例年になく雪が多いようです。季節用品が出てい
るようで、少しは活気がみられるようでうれしい話です。今年も皆さんと共に元
気が頑張っていこうと思っています。

石川勝行君 新年明けましておめでとうございます。新年早々ゴミが入ってすみませんが眼帯
してます。本年もよろしくお願い申し上げます。

外山晴一君 あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

丸山勝君 新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

岡田健君 BOXに協力

*12月のコメント賞は早川龍雄会員です

ロータリー財団ボックス:

羽賀一夫君 ロータリー財団あと半年間可愛がって下さい。

新入会員入会式:

新入会員 プロフィール

氏 名 米山 キクエ

生年月日 昭和23年10月16日

会 社 名 大同生命保険(株)

役 職 名 三条営業所長代理

会社住所 三条市林町2-1-24

TEL33-3045 FAX35-6392

自宅住所 加茂市旭町14-15 TEL52-3037

家族構成 定夫(夫) 隆之(長男) 宏美(長女) 祐子(次女)



卓 話： 「NGOボランティアに参加して」 ^{わたなべ}渡部 貴史様



1. 参加日程

10月24日（木）～11月8日（金）：移動を含めた日程

10月28日（月）～11月3日（日）：現地での活動期間

2. 構成団体

『アフリカへ毛布を送る運動』はいくつかの後援団体や協力団体の理解を得て、5つのNGOが中心となり活動を行っている。本運動を開始した1984年以来、累計で300万枚を超える毛布が海を渡った。

3. 場所・行き方（地図参照）

ロンドン経由でエチオピアの首都（アディスアベベ）に到着。その後小型機に乗り毛布配布活動の拠点（メケレ）に移動。

4. アフリカでの毛布配布活動について

配布活動は『アフリカへ毛布を送る運動』の一部ではあるが、誰でも参加できるわけではなく、その5つのNGOの会員であること。

それに参加人数も限られており、県で1～2名の参加人数になっている。今回参加した人数は男女ほぼ半分くらいずつの47人、年齢は18歳～68歳の人が参加した。

5. アフリカでの毛布配布活動の目的

①現地での毛布配布活動を通し、毛布を送る運動やその他のボランティアについての意義、意味を考える。

ボランティア＝自発的（自らの意思、誓願に基づく行為）

②世界の貧困や難民等の問題について理解を深め、国際的視野を広げ、自分の果たすべき役割を認識する。

③一人でも多くの人に伝えさせて頂き、市民運動化の推進を図る。

④ボランティア活動は、貧しい人のため、困っている人のためではなく、その活動を通して自身自身の成長を目的とする。

6. ボランティアなどの長期休暇

実際に参加したい人は大勢いたが、仕事の関係や会社の考えで、長期の休暇が取れず参加を断念せざるを得ない人が多くいた。私は社長をはじめ、現場の仲間達の理解もあり参加することができた。

7. 見学地域

①ドカアテンベン地区

90%以上の人が農業によって暮らしている。ここに限らず農業の生産レベルが低いため、政府とNGOが協力して溜め池や化学肥料の使用法、雨水の利用などの教育を行っている。

②ダム

土地の保水機能が低いため、農業は雨頼みの部分が多い。その状況を改善するべくダムの整備を進めている。現在、20以上のダム、18の河川の整備を行っている。ダムを作るだけでなく、雨の吸収力を上げる為に、山に石を積み水が溜まるようにした。作業効率は1人が8h働いて1mの石垣が作られる。今回、視察した山は完成するまでに2年かかった。

③井戸（ハゲレセラム地区）

手堀り作業で15mくらいの深さがある。このハゲレセラム地区には12個ほどあり、20%の人が利用している。残りの80%は未だに清潔な水にありつけない。雨季（7月～9月）は問題ないが、乾季（9月～2月）には節水制限がある。

④幼稚園（ハゲレセラム地区）

ある程度、裕福な家庭の子供が通っている。しかし、服はボロボロ、体は痩せ細っていて年齢よりも幼く見えた。学校は楽しいらしく、将来の夢（医者や先生など）もある。遊びは歌を歌ったり、積み木で遊んだり、ままごとなどをして遊んでいる。先生が怖いのかみんなとてもおとなしかった。

⑤病院（ハゲレセラム地区）

現在、8病院あるが6人の看護師しかおらず、決められた日以外は交代で移動している。医者はおらず、人数が足りないので看護師が優秀な村人を指導し、手伝いとして勤務させている。大きな病気になった場合はメケレの病院まで移動し診てもらう。しかし、移動は徒歩なので1日以上かかってしまい、着く前に死亡する人も多い。病院は政府が援助しており、ほとんどお金はかからない。

⑥戦争地域（エチオピアの国境付近）

エチオピアとエリトリアとの戦争。2075戸の人々が村を離れ、1400戸の家が破壊された。若い人は軍隊に取られた為、村には年寄りと子供が多い。本当は戦争なんかしたくない同じ民族が国境で分けられ戦争の被害にあった。あくまでも国と国の戦争。又、今年は干ばつの影響で農作物がほとんど取れない。

8. 配布活動に参加して

毛布配布場所には、四輪駆動車で片道2～4時間かけて移動し、現地のNGOが事前調査で各村毎に作成したリストに従って配布活動を実施した。配布場所にはリストに載っていて毛布をもらえる人ばかりでなく、毛布がもらえないにもかかわらず集まっている人もいた。毛布は、各村の貧しい人、体の不自由な人、老人、子供から順番にもらえることになっていたが、裕福な村、貧しい村の格差があるため、例えば目が見えない老人でもリストに載っていなければあげられない。その脇でスーツを着た若者がもらっている。不平等に感じたが、村単位で平等を確保している為勝手なことはできない。